

令和五年度 奈良県知事賞

水と治安はタダでは買えない

若草中学校 三年 織田 真央

朝、起きて蛇口をひねれば安心して飲める水が出る。家を出れば、安心して歩ける道路がある。行き交う車は、みな信号を守り、制限速度を守って走っている。塾帰りに夜道を歩いていても、強盗に襲われることも、痴漢に遭うこともない。もちろん、日本のどこかで、そういう事件は起きている。でも、少なくとも、私たちはそういう被害に遭うことを常に想定して、ビクビクしながら生活してはいない。むしろ、安全・安心が当たり前だと思って生活している。でも、地球上を見渡したとき、または、過去の日本の歴史を振り返ったとき、その生活は当たり前なのだろうか。いいや。そうではない。犯罪捜査に関わる職員の人員不足、あるいは、装備・教育が不十分なため、そこら中で強盗や薬物取引などの犯罪が行われている国、地域がある。警察自身が汚職にまみれる国もある。

また、先進国でも、水道水を飲むことが出来ない国もある。飲み水をくみに行くために、旅をしなければいけない国もある。日本でも、戦前や戦後の混乱期はそうであった。

今の私達は水道、道路、治安、すべて当たり前のように享受しており、これらは、国や地方自治体の活動により維持されている。そして、国や地方自治体の活動は、私たちが納める税金によって賄われている。

「安全な水と治安はタダでは買えない。」という言葉が父から聞いたことがある。私はまだ学生なので、直接税金を納めたことはない。でも、大人になったら、きちんと働いて、よろこんで税金を納めたいと思う。そして、それがこれからの日本の未来を担っていく者としての使命だと思う。それが安全・安心な社会で暮らすことができている私にできる最低限のことだから。

そして、もう一つ。一生懸命働いて税金を納めた以上、それがどのように使われ、私達の生活の役に立っているか、または、役に立っていないのか、きちんと監視することも重要である。それが、社会で起きている問題に目を向けるきっかけにもなる。そして、今の私達だけでなく、未来に生きる人たちのためにも、安全・安心が当たり前の社会にしていきたいと思う。